

各位

腹膜透析領域の拡販に関する協業のお知らせ

在宅透析の普及に向けたシームレスな情報共有の支援

株式会社ジェイ・エム・エス（本社：広島県広島市、代表取締役社長：桂 龍司、以下「JMS」）は、帝人ファーマ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：種田 正樹、以下「帝人ファーマ」）と、12月1日に、帝人ファーマが展開する多職種連携システム「バイタルリンク」について、腹膜透析療法の患者さんに携わる医療従事者向けに販路を拡大する販売代理店契約を締結しました。

1. 背景及び経緯

末期腎不全における腎代替療法として透析を受けている患者数は約35万人^{*1}とされ、緩やかな増加傾向にあります。透析治療は主に週3回、一回当たり4～5時間の治療を受ける血液透析と、患者さん自身の腹膜を用いて連続的に透析を行う腹膜透析に大別されます。

近年、政府による地域包括ケアシステムの推進、透析患者さんの高齢化にともない、自宅にてライフスタイルに合わせた治療が行える腹膜透析療法^{*2}が注目されています。

JMSは、日本における透析治療のパイオニアとして、血液透析や腹膜透析に関連する医薬品、医療機器を製造販売しており、在宅透析の普及を目指した腹膜透析領域の基盤構築に取り組んでいます。

帝人ファーマはこれまで、多職種連携システム「バイタルリンク」の販売や帝人訪問看護ステーション株式会社の設立など、医薬品および在宅医療機器の事業基盤を活かしながら、地域包括ケア関連の事業を拡大しています。

このたび、多職種連携システム「バイタルリンク」のさらなる利用者拡大を目指す帝人ファーマと、腹膜透析領域の事業基盤強化を図るJMSの両社において、腹膜透析の患者さんのさらなるQOL向上を目指すという構想が一致したことから、「バイタルリンク」に関する販売代理店契約を締結しました。

2. 今後の活動

JMSと帝人ファーマは、腹膜透析領域での協業による「バイタルリンク」の拡販を通じて、地域包括ケアシステムにおける多職種間のシームレスな情報共有を支援することで、高齢化が進む患者さんと、働き方改革が求められる医療従事者にとってより良い腹膜透析療法の環境を実現し、在宅透析の普及促進に貢献します。

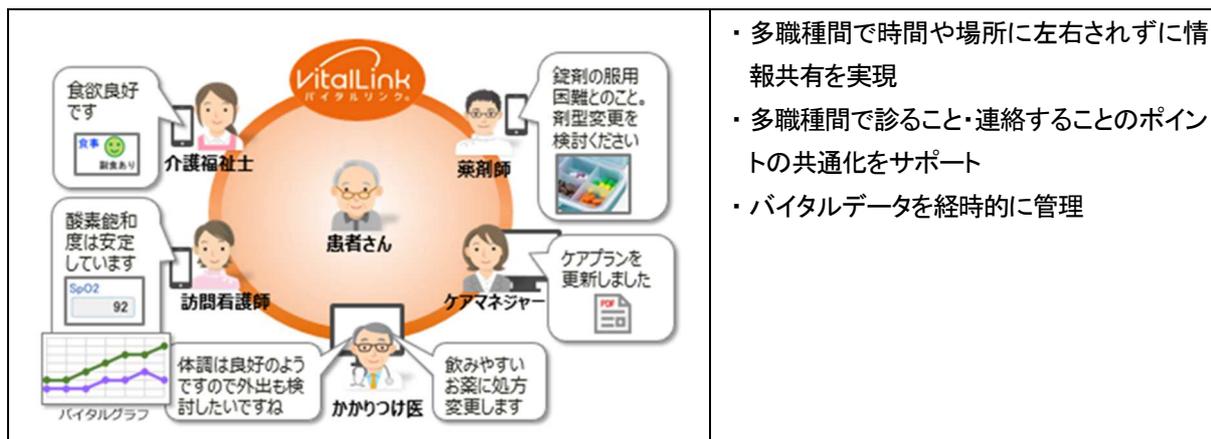
■多職種連携システム「バイタルリンク」

パソコンやスマートフォン、タブレット端末を用い、医師、看護師、薬剤師、介護従事者など、患者さんに関わる医療従事者間で患者さんの血圧や体温などのバイタル情報を共有することができる多職種連携システムです。2015年の販売開始以降、現在までに全国で3万施設に導入されています。

<https://medical.teijin-pharma.co.jp/product/zaitaku/vitalink.html>

※バイタルリンクは、帝人株式会社の登録商標です。

Press Release



* 1 わが国の慢性透析療法の現状(2021年12月31日現在)花房等、透析会誌 55(12):665-723、2022

* 2 腹膜透析療法について

腎不全患者の血液浄化療法の一種。患者の腹部にチューブを埋め込み、透析液を腹腔内に入れ、数時間貯めることにより、腹膜で透析を行い、血液を浄化します。数時間貯留後は腹部のチューブを介して排出し、再度新しい透析液を貯めます。この作業を繰り返すことで、穏やかに血液を浄化します。透析液を貯めている状態で自由に行動することができます。JMS 腹膜透析情報サイトもご覧ください。

<https://capd.jms.cc/about2/capd>



以上

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ジェイ・エム・エス 経営戦略室 経営企画グループ Tel 082-243-9059

本リリースに掲載されている将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、社会情勢の大きな変化などさまざまな潜在的リスクや不確実性が含まれております。当情報につきましては発行日時点のものであり将来的に変更される可能性のあることをご承知おき下さい。